

911.3
ハ
4

Handwritten text in cursive script on a piece of paper pasted onto the right page. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right edge and moving left. The characters are fluid and connected, typical of cursive calligraphy.

辨諸歌著到百首表之四

高意 意如 蘇蘇 蘇

宋

蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇

聖父 蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇

蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇

蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇 蘇蘇





伊予の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
つむぎせりつむぎ松戸の岸にせりあありたり  
八平

水晶の産とせり松戸のまきありあありああり  
諏方量

松戸の岸の松戸とせりあありあありああり  
周防山際

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
萬象

吉原のあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
目積

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
吉原蒙類

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
千住肌義

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門米負

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門米負

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
真琴

着四一

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
岩城元頼

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
白川鳴音

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
山形真青

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
水戸友鶴

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
竹ノ岡陀磨

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
藤田千飛

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
半田真富貴

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
桑折薄墨

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
弟山愛丸

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
弟山愛丸

松戸の海にまき、松戸の中よりのむすまきありん  
弟山愛丸

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花戸 仙臺 大園

三海のあしの花をわねうらむんまがふさう海の花戸 仙臺 幾代燈

まねとまうつ難波のまね花のつぐき声のまのあ 仙臺 此道

うばつと海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 仙臺 魁

まねうらむんまがふさう海の花の紙一まがふさう海の花戸 吉田 麟馬

まねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 吉田 寄浪

海の花のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 仙臺 小 重改 綴

はまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 叔如塚 雪人

あぢとまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 服野町 音高

まねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 服野町 道好

あぢとまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 着四二 麥之

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 村上 有竹

まねとまうつ難波のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 青梅 古道

まねとまうつ難波のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 藤塚 長人

まねとまうつ難波のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 草加 早丸

まねとまうつ難波のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 松代 美酒

まねとまうつ難波のまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 水戸 音人

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 千鳥 島人

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 彼那御 厚房

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 裏加光三 麟馬

あぢのあしをまねうらむんまがふさう海の花のまねうらむんまがふさう海の花戸 南新保 雪雄





白川 春彦  
 山形 千積  
 水戸 羽風  
 神奈川 見際  
 山形 松年  
 竹岡 道規  
 全 全  
 赤沼 歌友  
 名古屋 鬼影  
 千住 東作  
 全 街

全 文 人  
 大田原 春 文  
 全 全  
 萩 篠 風  
 萩 浦 風  
 花 守 風  
 仙臺 大 園  
 全 全  
 影 好 道  
 水戸 鳴 道  
 全 全



空間 仲空

白川 真名鶴

全 真左臣

吉田 秀磨

全 正樹

高畑 三味

仙臺 真根人

全 近道

全 小綴

昌津 為人

着四六

此阜 黙山人

諫方 文雄

名吉屋 香久美

甲西野 鳩丸

服野町 道好

麟馬

袖人

天神林 保鳥

牧布死 家住

宿

栴

百船  
 深志  
 摘方  
 此成  
 不雄  
 百入  
 兼芳  
 直丸  
 佐倉  
 棚  
 吉原  
 樽  
 三浦  
 馬  
 枝

後春  
 素顔  
 吉原

水

花也  
 鳴音  
 駿府  
 直古  
 宮崎  
 千本  
 全  
 柿人  
 白川  
 折鶴  
 桑折  
 見詰



夢のつらさの面をうつりて 夢をわづる 流の境 仙臺 真根人

うつらうつらと夢をわづる 入るたの地のまね 大田原 比盛

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 高田 長橋

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 釈迦塚 雪人

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 下今町 直樹

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 桑名 由刈

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 真 咲

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 諫方 吉成

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 後 春

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 服野町 澄

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 三浦 壁面

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 高田 猿智恵

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 新潟 朱人

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 福 磨

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 松代 良村

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 桑名 雅富

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 桑名 安筆

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 氣仙沼 真民

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 全 清通

あつたあつた夢をわづる 夢のまね 全 歌胤

昔の七

目録加花一

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね

あつたあつた夢をわづる 夢のまね







さか湯不湯へうはなも強弱の成り格を海に流すわが成  
まののこし目とま井の岩とと岩ありまをわが成り格を  
庄内 為成  
蓼雄

水鳥

破那細

えまのいほ森のなほ樹ととさりあるなり屋敷  
十住 里元

裏微如花三

まのの申とさるうまのいほのいほのいほのいほ  
吉田 真風

あまのいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
岩城 武雄

裏微如花二

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
駿府 島人

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
岩城 直古

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
名古屋 歳永

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
小野宮 真勝

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
金 厚

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
桑折 御空

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
花也 房弘

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
千住 美豆保

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
桑折 山文

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
全 賢久

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
全 清音

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
全 津守

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
大田原 景山

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
米守

まののいほのいほのいほのいほのいほのいほ  
精進



上徳牛込 行

吉田 真文

秋田塚 真風

長岡 雪入

松代 美壽丸

長門 倭歌枝

全 南山

佐原 洪雪

草加 八重垣

梅成

梅夫

笠間 魁

吉原 素類

三崎 芳風

天童 美鳥

水戸 豊久

千住 街

吉田 真風

花也

長竹 行也

香見 由喜丸

駿府 直古

どしどしの英うらたを氷まねても氷ふるほどとて

もまもまもむねのこころをいかにせよとて

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん

岩城 真酒躬  
 浪女  
 白川 長成  
 山形 茂里  
 水戸 友雄  
 三浦 真直  
 上徳牛込 安記  
 橋 朝行  
 名古屋 稻丸  
 全 真辰  
 新うづ流束の鶴ハ夕月の西をたのむわらわら

保原 隣  
 大田原 友成  
 全 央  
 最上 真雀  
 三浦 豆成  
 大原 元住  
 影 廣  
 芦野 道文  
 水戸 亮丸  
 笠間 芳文  
 吉田 真文

日影のちやうど中を流るる水は

伊勢守治青則改  
真平

あつたのうまかきよからあつた水は

高田  
柿人

松原の里のうまかきよからあつた水は

高田  
廣成

あつたのうまかきよからあつた水は

長岡  
雪人

あつたのうまかきよからあつた水は

長岡  
山人

あつたのうまかきよからあつた水は

小  
河人

あつたのうまかきよからあつた水は

朱  
人

あつたのうまかきよからあつた水は

八  
平人

あつたのうまかきよからあつた水は

駿府  
音人

あつたのうまかきよからあつた水は

神崎  
駒彦

あつたのうまかきよからあつた水は

富津  
瀬踏

あつたのうまかきよからあつた水は

諫方  
年子

あつたのうまかきよからあつた水は

全  
真石

あつたのうまかきよからあつた水は

服野  
呉鷹

あつたのうまかきよからあつた水は

上  
澄人

あつたのうまかきよからあつた水は

村松  
厚房

あつたのうまかきよからあつた水は

三井  
若水

あつたのうまかきよからあつた水は

庄内  
出羽住

あつたのうまかきよからあつた水は

大  
道主

のの煙入しつゝもむばたけのふもむつゝの煙の煙の  
 全 諏方 廣 仗  
 全 巢 垣  
 清 氷  
 水 住  
 草加 兼 芳  
 佐倉 真 素  
 千住 熊 雄  
 全 熊 雄

網代

波那細  
 吉原 素 顔  
 片倉 川 常  
 數 成  
 裏微如花三  
 裏微如花二  
 網代のあきとちもらん

併くち打袋の布網代ゆふこをせむかれとある  
 千住 街  
 諏方 橋  
 青梅 真 丸  
 岩城 暖 丸  
 甲府 久 磨  
 真 直  
 名吉屋 縮 丸  
 桑折 賢 久  
 十住 里 元  
 全 東 山  
 空 寐

うちほねぬくとれをて細代もたはの程と程ある  
 細代もあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ

吉田 真文  
 大田原 道守  
 狸塚 盛  
 芳野 高成  
 全 玉響  
 全 空寐  
 諫方 真葛  
 白川 金家  
 十住 長成  
 美豆保

目如花二  
 目如花二  
 目如花二

おしとつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ  
 細代もつづつとあぢれあまのいよめとあぢれあまのいよめ

甲府 二水  
 群子  
 川崎 鳳管  
 白川 其葉  
 全 関根  
 埴 櫻水  
 山形 千藤  
 中瀬 真直  
 金 俊  
 新庄 真柴  
 取上 豊秋

目如  
 目如  
 目如

舟より船も藤の葉の細代人とむむそのむむ船人なる 全 央

細代より舟も清く船も不春のむむ其のむむ多り 梧 風

ふんをぞ馬車舟の細代もわらうらうらも其のむむ 常陸麻生 歌志久

後のむむ其の葉もむむむむのく日下細代の舟もゆらん 駿府 真 哉

細代もハき舟の川のむむむむその日と送る細代もゆらん 水戸 重 美

むむハハのむむむむと細代もわられむむむむとある舟人 吉田 由 名

舟もあそむる舟もあそむる川のむむむむむむむむむむ 大田原 黒羽 盛

舟も舟の細代も舟の舟の舟もあそむる舟もあそむる 桑折 酒 樂

舟の舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 忍下中条 御 空

舟の舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 諏方 石 成

舟の舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 真 石

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 庄内 長 房

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 萬 象

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 真 鬼

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 角 住

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 庄内 元 季

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 松代 定 雄

舟の舟もあそむる舟もあそむる舟もあそむる 佐倉 棚 廣

神樂

波那細 神樂 水 哉

東彼加花三 駿府 直 古

東彼加花二 新庄 真 柴

里人のあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 吉原 裳 顔

裏微 山花のあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 柿 人

そと花の山花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 暖 丸

白白もあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 真 直

花のあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 関 垣

華子の花を数もまてりもあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 米 守

山花のあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 関 垣

そと花のあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 年 子

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 涼 風

月をくもあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 跡 人

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 岩城 良 材

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 松代 秀 雄

目加花一 山花のあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 川崎 鳳 帯

群衆もあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 千住 東 作

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 三浦 鳴 人

目加 山花のあつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 千住 安 行

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 大田原 米 貞

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 南新保 元 住

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 南新保 雪 雄

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 山 近

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 山 於 兎 門

あつしき花の湯は若たうもあつしき花の邪玉秋邪もきまゆしとあぢわん 山 於 兎 門

西の如くもなるおの御草花あけいさく節のひまき 雷津 喜 樂

八幡のまゝも戀う物もさかしのぬめり 岐阜 一山人

八の女の若かりし足跡のこゝろ 諏方 真 石

を非手流すもさかきぬ月もさかき 村松 厚 志

龍馬を産すもさかきぬ 諏方 橘

さかきぬ月もさかきぬ 吉原 素 願

鷹狩

彼那袖

さかきぬ月もさかきぬ 諏方 空 寐

裏微如花三

さかきぬ月もさかきぬ 諏方 橘

非月もさかきぬ 桑折 八 平

清き月の影もさかきぬ 御 空

着四二十一

あそびんとうら 吉田 真 風

物ねの小道の御影もさかきぬ 十住 東 山

物ねもさかきぬ 桑折 真 武

物ねもさかきぬ 岩城 暖 丸

物ねもさかきぬ 菖蒔 月 彦

物ねもさかきぬ 大田原 景 山

物ねもさかきぬ 諏方 真 石

物ねもさかきぬ 長竹 行 也

物ねもさかきぬ 岩城 真 酒 躬

物ねもさかきぬ 白川 春 彦

物ねもさかきぬ 宝木 水 埜

物ねもさかきぬ





とれどぬまのつるい花あつていそあをぞ花ひき  
十位 街

春の餌小珠散りけぬつれぞほらんあつぬ物人  
全 艶女

出物地のあふもまをし接ふあまの月あまむ時ぞ  
京上 繁留

物あつていづれあつらひあまのあつたの流を猶ほあつた  
駿府 花仙

押さじと歩むも死骸をいそまを植ふゆにあつたあつた  
市川 真河

多し進みつれあつた川あつたあつたあつたあつた  
水戸 浦風

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
笠間 洲長

それあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
高畑 梅壽

仕扱せあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
仙臺 津房

物あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
御代風

群あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
於鬼門

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
野上 亀成

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
富津 喜樂

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門 千春

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
片倉 南山

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
川 麟馬

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門 麥之

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門 淡雪

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
肌 義

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
長門 糸柱

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
明兼



松栢をふやうらんとしき記をよも栢ぞとくろ網を

名古屋 十住 稲丸

凡そく網の種をよむくはあを種やあまゆらん

桑打 東作

葉のよむやあは葉のほひのあそひの種を種のかく

市川 津守

く網をよむ海にききくくくくくくくくくくくく

△ 真河

くあふ葉をよむくくくくくくくくくくくくく

高畑 △ 葉常

きくくくくくくくくくくくくくくくくくく

駿府 駒彦

栢屋をよむやんとあは葉のよむくくくくくく

庄内 出羽住

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

大 道

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

萬 象

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

鳴 音

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

全 角 住

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

越後中野 真成

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

氣仙沼 大 江 咲

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

岩城 暖 丸

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

名古屋 秋 津

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

岩城 真 守

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

辛 喜

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

富美負

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

高

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

目

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

目

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

目



白雲の葉もよもひのつらき花を遠き方の

全 新泻 全

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

福 啓

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

音 高

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

真 咲

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

麟 馬

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

千代人

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

東壽園

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

出羽在

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

山 際

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

百 形

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

良 材

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

雄 富

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

長 人

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

定 雄

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

空 面

埋火

渡那細

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

秋 津

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

梧 風

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

豆 成

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

石 綱

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

金 家

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

其 葉

名古屋

三浦

諫方

白川

其 葉

其 葉

まの葉をよもひのつらき花を遠き方の

其 葉



かまいたつたの巨燈の中をゆくは海をみちるまをま  
小泉 真砂

孫金の内を抱き埋火ふきゆくことあるらん世せり  
富津 年子

白ひたまりの海にまの木の影をみえん埋火  
諏方 真石

埋火ふきゆくわゆくわゆくわゆくわゆくわゆくわゆくわ  
佐原 八重垣

若狭せいの花あぐら着せよふ別何とある野人  
白川 春彦

生肉のまをいと富ふれをみぬくわどぬく埋火の灰  
苔成

是を死なぬのうらむらぬのうらむらぬのうらむらぬ  
青梅 松俊

埋火のあつぬくは埋火のあつぬくは埋火のあつぬく  
松代 芳文

おきききききききききききききききききききききき  
吉原 仮名鶴

を死ねたはたせ梅のまをて一まをたよつてききききき  
前橋 素顔

浦多ぶききききききききききききききききききききき  
露滋

御の姿のわけ大い名あつて自まをて死なぬは死  
千住 関垣

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
富津 艶文

を死のわらききききききききききききききききききき  
岐阜 直蔭

すまをて埋火一埋火を死なぬまをて埋火あつぬく  
一山人

埋火を死の中をゆくは埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火  
佐倉 真湖

今を死にゆくは埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
真素

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
真琴

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
美都井

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
歌沙丸

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
若柴

埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬくの埋火あつぬ  
水戸 松人

目妙如花二

目妙如花一

目妙

気仙沼

全用音改

高畑

山形

水戸





小泉 真砂  
 柿崎 真成  
 全 喜磨  
 上野 廣丸  
 長門 南山  
 名古屋 香久美  
 服野町 志都嘉  
 桑名 園子  
 雀間 糠主  
 村松 徒遊  
 厚房

式部 干雄  
 牧布施 真猿  
 京 義平  
 青谷 東壽園  
 肌 義  
 山 近  
 芳野 山  
 諫方 真咲  
 雄 富  
 庄内 吾丸  
 鉄 人

柳をてきり出欄ふきのきやくと記をてふは所種 高畑 真名富  
 子記ふもなき人の足有あしむとの事をもあつて地火 松代 鳴海  
 孫ふえり櫻もあつると櫻あつり野とてを記をの埋火 全 保明  
 灰ふありとてあつてもだんばおたまのあつてを記をの埋火 全 秀雄  
 埋火の記をの埋火とつれえん壁うげくとも不附れ 全 倭歌枝  
 守記の記をの埋火もやとて懐ぬ記をの埋火 村松 厚磨  
 ともれ記をの埋火とて記をの埋火とつて記をの埋火 吉原 裳顔

除夜

波那細 高畑 歌沙丸  
東微如花三 伊達彦  
 和月おされぬさだのよをたておのよんてさしり 大田原 真壽躬

ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
東微如花三 加計水  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
東微 大江  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
氣仙沼 雑子  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
山形 加計水  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
津島 清登  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
半田 浅菽  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
大田原 真富貴  
 ちうんとさしりやと世の中へまるとまゝのりてさる  
小 櫛

ゆゑに成りては... 前橋 暗記

まの... 大田原 真壽躬

これ... 甲府 二水

葉の... 仙臺 權人

初... 吉田 鎌也

と... 仙臺 真根人

穀... 南新保 雪雄

ゆ... 富津 山近

漁... 諏方 千代丸

ま... 長門 吳鷹

ま... 南山

何... 真咲

何... 跡人

ゆ... 旅鬼門

初... 諏方 清水

目... 花守

幸... 比左志

目... 空寐

目... 由喜丸

邪... 片倉 麟馬

事... 川常

目... 三千春

中のおん藤は全のまことま地くとあよ幸のておと

青梅 真丸

ちもとのもまおれたや住あぐとあな幸代とあれおたり

氣仙沼 歌胤

まをまの降杖のまをの強さお同のまをの鬼もたあは

水戸 太白

内をくひ鬼のまをくたあ寄あくのまをを寄あひを

甲府 比羅久

窮あふまをたふとあつりお龍のあもをををを

神奈川 久磨

ゆへ入る居候のまをひお樹のあまをををををを

神奈川 連

幸代のももへ住もつとあつりお龍のあもををを

荻蒔 数成

まをたまをたふとあつりお龍のあもををを

三崎 陀房

幸代のゆへ入る居候のまをひお樹のあまををを

若山 芳風

ゆへ入る居候のまをひお樹のあまををを

駿府 真白

ゆへ入る居候のまをひお樹のあまををを

和 海

はよまをたあつりお龍のあもををを

仙臺 大園

幸代はまのまをたあつりお龍のあもををを

吉田 田磨

幸代はまのまをたあつりお龍のあもををを

全 道守

たあつりとあつりお龍のあもををを

高畑 葉常

柳のまをたあつりお龍のあもををを

八 平

月をたあつりお龍のあもををを

南新保 三枝

ゆへ入る居候のまをひお樹のあまををを

長岡 山入

まをたあつりお龍のあもををを

柿崎 音成

鶴のまをたあつりお龍のあもををを

名古屋 香久美

陸奥の十府のまをたあつりお龍のあもををを

天神林 保鳥

鶴のまをたあつりお龍のあもををを

望月 澄方

おの海入りのつたを流しつゝおまへ河ん幸の天龍

長門

淡雪

おまへのおまへよりおまへをさふおまへをの海を流れぬ

青谷

素人

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

諏方

高根

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

鬼笑

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

赤根

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

花守

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

近湖

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

松代

秀雄

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

十住

熊雄

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

沢柳

薬根

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

真顔

水

俳諧歌場翁撰

波那細

日の影は影を和申ふる影のくた影の流 影はく

名古屋

弘器

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

印西

群住

裏微か花三

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

天童

美鳥

裏微

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

長岡

竹住

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

水戸

友雄

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

白川

弘磨

目奴加花二

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

酒盛

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

空寐

おまへのおまへをのたつたのくおまへのおまへをのたつた

新泻

由鷹

狐色の道草も風も走ると 水もわこの強弱の湖 名古屋 香久美

琴も走し流し水もわこの新中も走れぬ中 岩沼 全

鳴瀬の事も走ると水もわこの水もわこの 岡部 仲 舎

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 篠塚 鳥 柴

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 野辺 蔵 人

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 篠塚 子 成

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 狸塚 高 成

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 水戸 照 道

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 水戸 友 雄

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 水戸 幸 秀

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 仙臺 真 根 人

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 深 志

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 祢津 萬 事 馬

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 水 哉

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 新泻 真 富

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 小町 袖 女

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 川名 琴 富 貴

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 全 真 米

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 真 湖

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの 白川 酒 盛

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの

水もわこの水もわこの水もわこの水もわこの

風あげどまぶらふに 池も水ありふ冬鏡里しき  
目妙 市川 櫻木  
花散りて水くさるるも車たせし風のよお清らに

あはれまゝまきの磯の影風 水糸もる巻のさかきと  
長岡 山入

衣代巻がさげし桐の座を足月申すくともる水糸  
甲府 盛益

谷川とらぶ水はももを桐の風おびつるなるべし  
半田 三春

梅お通ふいとまきもきこれに水おむせびれてあふぬじ  
岩城 真富貴

池の面およりし水はむし名のゆせつる鏡とぞもる  
岩城 長人

山に海客の水おとせしふは嗽く鏡とぞもる  
牧布施 里也

鷹狩

裏做如花三  
おとすくまもくまむる物か但知あひさ油の君より  
大門

おとすくまもくまむる物か但知あひさ油の君より  
空寐

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 真住

おとすくまもくまむる物か但知あひさ油の君より  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道

あまのりくもさやうもたのよたあまの影の夢ゆかり  
市川 常道





裏櫓  
心あふくち舟くえあつたてくはさつ中うる巻の物者 庄内 二色

目如花二  
けまきそそあもえんをほつて重なるる巻の物者 新泻 山松

目如花一  
ふりせ下とあもえんをほつて重なるる巻の物者 市川 常道

あれまきえほつたはほつたまの巻の物者 野辺 常道

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 市川 常道

町巻の日巻をほつたはほつたまの巻の物者 室田 常道

初巻の巻をほつたはほつたまの巻の物者 庄内 真牛

巻をほつたはほつたまの巻の物者 見 雀

大巻をほつたはほつたまの巻の物者 上今井 松俊

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 庄内 守

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 小町 琴富貴

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 印西 吉枝

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 大倉 千町

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 篠塚 子亀

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 野田 成共

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 石和 春雄

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 足利 静

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 甲府 久磨

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 川名 真米

あつたはほつたはほつたまの巻の物者 白川 楽根

夜雪

裏微花二

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支

三春

事成

吾丸

大道

大門

二色

稻城

清音

稻實

御空

駒成

真酒躬

正秋

吉成

忍照

群住

薄墨

吞芳

清通

春影

裏微花二

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支

三春

事成

吾丸

大道

大門

二色

稻城

清音

稻實

御空

駒成

真酒躬

正秋

吉成

忍照

群住

薄墨

吞芳

清通

春影

松上雪

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

裏微花二

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

春支の面は解のspomを花はむらりてあつるのま久

印西

群住

栗折

薄墨

与枝

吞芳

石和

春影

庄内

東金

栗折

清音

栗折

御空

岩城

全

正秋

吉成

川名

忍照

氣仙沼

清通

春影

庄内訓文  
松の白敷とかな松の八十のさよんをさり

山形真青  
松のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

来折薄墨  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

全御空  
松のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

室田事成  
あづつら自をいし松のほし松のむし松のまきとあじ松

岩城暖丸  
風中の樹のむし松のほし松のむし松のまきとあじ松

御福  
松のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

山松  
血のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

麻生千金  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

称津水哉  
つらねをいし松のほし松のむし松のまきとあじ松

稻實  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

左下六五

百人  
松のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

市川全  
人の目なたる松のぬれ松のむし松のまきとあじ松

真河  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

大江  
鳥のぬれ松のむし松のほし松のまきとあじ松

長岡貢  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

笠間要  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

昌津千代丸  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

源志  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

光貞  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

万作  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

音繁  
あまのり久し松のほし松のむし松のまきとあじ松

歳暮

波那細

煤拂く先物をまゝのりきかぬかゝりかゝり

大門

裏做

幸代書ハ多し驚くことまじき物なれど

市川 真河

舟の尾の煙をそのまゝのりきかぬかゝり

東金 箱城

とまゝにたれし物もあらずいふらふ

長岡 山

あつちあつちのりきかぬかゝり

篠塚 音人

そのまゝのりきかぬかゝり

山形 清澄

指をくちぎるゝのりきかぬかゝり

新泻 水哉

日影入川尻をそのまゝのりきかぬかゝり

新泻 由鷹

目妙如花二

長岡 岩門

目妙如花一

花人

左下六六

舟りてのりきかぬかゝり

福養

幸代書ハ多し驚くことまじき物なれど

佐原 八重垣

百部ハ多し驚くことまじき物なれど

甲府 三春

右磨ハ多し驚くことまじき物なれど

水戸 友鶴

一とんハ多し驚くことまじき物なれど

室田 橋守

幸代書ハ多し驚くことまじき物なれど

全

目妙如花二

庄内 全

目妙如花一

二葉

魚ハ多し驚くことまじき物なれど

元朝

目妙

裡塚 真湖

高成

高成

歳暮

波那細

煤抄く先物えをむこの若ハなまきひんあといふ

大門

裏微

幸に昔ハより繁いとてまきやゆふしゆく徳しども

市川

真河

舟の尾の艇をどきの妻よりきふらつてまきを積り初ま

東金

稻城

まきまうしたれし幕布不意そとあつらふまきありの市中

長岡

山入

篠塚

音入

あつらふあつらひりゆとまんと人のまきまうとく市

山形

青登

笠間 魁  
 栗名 道  
 岩城 長  
 庄内 人  
 真牛  
 敬成

増意

裏微加花三 大門  
 名古屋 香久美  
 狸塚 駒成  
 岩城 真酒躬  
 元朝

目加加花一 香久美  
 春友  
 印西 百合丸  
 長岡 山入  
 目加 田作  
 室田 壽直

意伴

裏微加花二 庄内 二葉  
 東金 稻城  
 白川 大門  
 折鶴

白川 関根

目加花二 伊の志小やのきくあぐくをこくを建てあびるをえん 印西 離秀

目加花一 伊の成とそあひぬくをまふ人の豹のつゝあれをせー 東金 群住

よりをを逆ひも娘が伊のなごを同かいつまあつむ 庄内 稻城

伊とつをる身れうき人小あやのきくを教もえん 二葉

目加 多るをを海がさたふを舞く伊とて入ちつせろり 印西 雄路知

足目ををじりてれづつき伊小部との徳のゆゑれをせん 若城 武垣

月のまじりてうらむ伊のあかたをぬきあのやうに 牧布施 暖丸

あにバ目を木まき一伊よちつこの柳の葉内をせん 若 里也

信あき母大仙びく伊の物あつてとをれぬあはし 若 柴

神祇

左下六八

彼那細 岩沼 仲舎

照原の鏡の文の言遣しおれどあふまをうらね 稻實

裏微加花二 わあぐ下うた例のきを絶ててをれあられども 商 人

裏微 かきあのきをうらむあかん前のをあたくはあはれ 佐原 杉盛

目加花二 確しとて伊のひん人のきをうらむあかん前のをあたくはあはれ 名古屋 弘器

目加花一 多あき鳥の羽とあれの鴨川と伊奥の星と流しあを 岩沼 仲舎

とあはれをうらむあかん前のをあたくはあはれ 仙臺 真根人

かゝれ小あをきを絶ててをれあられども 佐原 杉盛

暑さのしとあはれうらむあかん前のをあたくはあはれ 岩城 心春

目加 後あをを絶ててをれあられども 祝

裏微 後あをを絶ててをれあられども 春友



目録如花二  
時々の中り物入りの者人ゆき也代ぞりてき  
空寐

世々の肩をゆるるる世をふと死しりぬ物あぞき多  
真富

目録如花一  
安き山のなちり入るも物ぞりてき世をわたり  
市川 真河

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
長岡 御代門

世を教つるの教昔むくまつるしをりく世をせり死  
花人

まつるしをりく世をせり死世もあきも世をせり死  
光貞

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
市川 岩國

世を教つるの教昔むくまつるしをりく世をせり死  
祿津 水哉

まつるしをりく世をせり死世もあきも世をせり死  
市川 河水

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
式部 和足

左下六九

俳諧歌左右百首下之巻終

俳諧歌左右百首下之巻終

たの物ぞりてき世をせり死世もあきも世をせり死  
入るも物ぞりてき世をせり死

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
大又世をせり死

世を教つるの教昔むくまつるしをりく世をせり死  
入るも物ぞりてき世をせり死

まつるしをりく世をせり死世もあきも世をせり死  
入るも物ぞりてき世をせり死

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
入るも物ぞりてき世をせり死

世を教つるの教昔むくまつるしをりく世をせり死  
入るも物ぞりてき世をせり死

まつるしをりく世をせり死世もあきも世をせり死  
入るも物ぞりてき世をせり死

世をくらの世はよき代まつるしをりく物のおぬん  
入るも物ぞりてき世をせり死

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than the surrounding text. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge.

Handwritten text, possibly a signature or a specific reference, located below the main body of text.



*[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*

*[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*

*[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*

*[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*



